

PDB-R

日本語マニュアル

Rioworks Japan

概要

RIOWORKS™ PDB-R マザーボードをお買い上げ頂きましてまことにありがとうございます。
当マニュアルは英文マニュアルと共にご利用下さい。PDB-Rは Intel®440BX チップセットを搭載したデュアルスロット 1 ATX マザーボードで、Intel®Pentium™ II プロセッサ 350MHz ~ 450MHz または Pentium™ III プロセッサ 450MHz~650MHz を搭載することができます。メモリは SDRAM を最大1GBまで搭載可能です。PDB-R は R A I D レベル 0 (ストライピング)、レベル 1 (ミラーリング) 及び 0 + 1 の機能を追加提供します。R A I D には UDMA/66 ハードディスクを 4 台まで接続できます。PDB-Rによって高いパフォーマンスを誇るシステムを構築することができます。

PDB-R のパッケージの開封

PDB-Rのパッケージを開封し、以下の物が揃っていることを確認してください。

- PDB-Rマザーボード 1 枚
- IDEフラットケーブル 1 本
- ATA/66 IDE フラットケーブル 2 本
- フロッピーディスクドライブ用ケーブル 1 本
- 予備ジャンパキャップ入りの袋
- 英語マニュアル 1 冊、日本語マニュアル 1 冊
- 保証書 1 枚
- IDE RAID ドライバ フロッピーディスク (NT4/95/98)
- IDE RAID ユーティリティを収録したCD-ROM 1 枚

1 つでも欠品がある場合は販売店にお問合せください。

マニュアルについて

当マニュアルはPDB-Rマザーボードについて詳しく記載しています。設定の手順はマニュアルに従ってください。特に「重要」、「警告」及び「メモ」マークのついた事項は注意深くお読みください。

情報の入手方法

マニュアル内の記載事項の他に更に情報が必要な場合は以下の方法で、情報入手が可能です：

- ◆ RIOWORKS のインターネットホームページ台湾 www.rioworks.com, 日本 www.rioworks.co.jp にアクセスし、PDB-R のページから、ジャンパ設定、最新 BIOS を入手することができます。
- ◆ 問題が生じた際にはホームページのFAQをご覧ください。同様の問題とその対処方法が記載されている場合があります。
- ◆ faq@rioworks.com にメールを出すことで、返答を得ることも出来ます。

※日本語のサポートについては support@rioworks.co.jp にメールをお寄せください。

PDB-R の主な特徴

CPU:

FSB 66/100MHzのSECC2 Intel®Pentium™ II / III 350MHz~650MHz に対応しています。オンボードのスロット 1 にはCPUをデュアルで搭載できます。

キャッシュメモリ:

キャッシュメモリは Intel®Pentium™ II / III に内蔵しています。

チップセット:

PDB-RにはIntel 440BXチップセット(82443BX,82371EB PIIX4E)を採用しています。82443BXはCPUコントローラ、SDRAMコントローラ、AGP、PCI 2.2 ローカルバスを提供します。82371EB PIIX4E は PCI to ISA ブリッジ、USBコントローラ、IDEコントローラ、拡張 DMA コントローラ、パワーマネージメントユニットを提供します。このチップセットはFSB 66/100MHzに対応します。

PC100 SDRAM:

4つの 168-pin DIMM メモリソケットは最大1GBまでのPC100 SDRAMをサポートします。使用可能なメモリモジュールは32、64、128、及び、256MBの4種類となります。

AGP:

データ転送率 528MB/秒までのAGPビデオボードに対応しています。

拡張スロット:

このマザーボードには5つの32ビットPCIスロットと2つのISAスロットがあります。PCIバスでは最大132MB /秒のデータ転送が可能です。

拡張 ACPI:

Windows 98/NT/2000のACPIに完全に対応しており、ソフトオフ、Wake-On-Ring 及び Wake-On-LAN をサポートします。

Wake-On-LAN:

WOL コネクタを持つPCIのLANカードを使用するとLANを経由した本体のレジュームが可能です。

ハードウェアモニタ:

当マザーボードのハードウェアモニタ、付属のIntel LANDesk Client Manager (LDCM) 及び RIOWORKS™ “SmartWatch” ソフトでは本体内部のファンの回転監視、温度監視及び電圧監視を行うことができます。

Desktop Management Interface (DMI):

BIOSを通じてDMIに対応しています。DMIはOSとハードウェア間で通信を行うための互換性の高い標準プロトコルです。

PC 98 Compliant:

PDB-R マザーボードは Microsoft の PC98 規格にBIOSレベル及びハードウェアレベルで適合しています。

Ultra DMA 33 バスマスタ IDE:

オンボードの2つのIDEチャンネルはUltra DMA /33をサポートします。PIOモード3、4、バスマスタDMAモード2やエンハンストIDEにも対応しており、様々な機器を接続することができます。

フロッピーディスクコントローラ:

オンボードのフロッピーディスクコントローラは、通常の3.5インチ(1.44MBまたは2.88MB)に対応し、更に日本では標準の3モード(1.44MB,1.2MB,720KB)及びLS-120ディスクドライブ(3.5インチ120MB)にも対応しています。BIOSはIDE CD-ROMまたはSCSI機器からのブートアップに対応しています。

スーパーマルチ I/O:

I/O コントローラは 2 つの高速 UART 互換シリアルポートと、EPP、ECP 互換の平行ポートを提供します。また UART2 は COM2 ポートをワイヤレス通信のための IrDA ポートとして使用出来ます。

SB-Link:

Creative の SB-Link に対応しています。

IrDA:

赤外線ポートモジュールがご利用いただけます。

IDE RAID(PDB-R のみ)

1. ストライピング(RAID 0)、ミラーリング(RAID 1)及びストライピング／ミラーリング(RAID 0+1)ができます。パフォーマンスのカスタマイズとデータ復旧は BIOS メニューで提供します。ミラーリングではバックグラウンドでの自動復旧が可能です。システムの再起動をすることなくデータの復旧が行えます。
2. 2 つの RAID コネクタには 4 台までのハードディスクを接続できます。容量が 8.4GB 以上のハードディスクも使用できます。 Ultra DMA4/3/2/1/0 ,DMA2/1/0 に対応しています。 Ultra ATA/66 対応のハードディスクを使用すると 66MB/秒までのデータ転送率となります。 PCI 経由でシステムメモリと IDE データのやりとりを行うときには CPU に負荷がかかりません。
3. BIOS メニューの ” Auto Setup” で素早く簡単に最適な RAID アレイの設定ができます。

第1章 ハードウェアの設定

この章ではCPUやその他ハードウェアの接続等、PDB-Rの設定方法を説明します。

設定の手順

設定は6つの手順に分かれます。

ステップ1：ジャンパのセット

ステップ2：メモリの取り付け

ステップ3：CPUの取り付け

ステップ4：ケーブルの接続

ステップ5：拡張カードの取り付け

ステップ6：電源投入

警告

このマザーボードには繊細な電子部品を搭載しているため、静電気で容易に故障します。記載事項を守りマザーボードの取り扱いには細心の注意を払ってください。マザーボードに触る前に他の金属に触り、体内の静電気を放出してください。

ステップ1：ジャンパのセット

このマザーボードのジャンパは1つだけです。

アイテム	ジャンパ	ページ
1	リアルタイムクロック(RTC)RAMのクリアジャンパ(CLRTC)	1-2

1. リアルタイムクロック(RTC)RAMのクリアジャンパ(CLRTC)

BIOSの情報はすべてCMOS RAMに保存します。CMOS RAMはボタン電池で記憶を保持します。通常はRTCデータを保持するためにピン1とピン2にキャップを被せショートさせておきます。

CMOSの内容を消去する場合のみピン2とピン3をショートさせてください。

メモ

RTCデータをクリアするには以下の手順に従ってください。

- (1) パソコン本体の電源を切ってください。
- (2) ピン2とピン3を2秒以上ショートさせてください。
- (3) ピン1とピン2にジャンパを戻してください。
- (4) パソコンの電源を入れてください。
- (5) システム起動中に<Delete>キーを押し、BIOSの設定を行ってください。

ステップ2：メモリの取り付け

PDB-RはDual Inline Memory Modules (DIMM)を使用します。4つのDIMMスロットには3.3ボルトバッファなし、またはレジスタ付の Synchronous Dynamic Random Access Memory (SDRAM)が使用できます。32, 64, 128, 256MBのSDRAMを組み合わせて、合計で32MBから1GBまでの使用が可能です。

チップセットのエラーチェック・訂正(ECC/Error Check and Correction)機能をお使いになる場合は、片面に9チップ(通常、8チップ+ECC 1チップ)あるDIMMモジュールとBIOSの設定が必要になります。

BIOSの設定については第2章セクション4”Advanced Chipset Setup”をご覧ください。

重要

□Intel PC100規格に準拠したSDRAMだけを使用してください。PC100以外のメモリを使用すると厳密なデータの受け渡しタイミングが合わず、システムが起動しない場合があります。

□メモリチップはバッファなし、またはレジスタ付のSDRAM (ECCの有無は問いません)に対応しています。

□片面が8チップのSDRAMはECCに対応していません。ECC対応のSDRAMは片面が9チップです。

□バッファなしのSDRAMとレジスタ付のSDRAMを同時に使用することはできません。

メモリは以下の組み合わせで取り付けてください。

DIMMスロット	使用可能なメモリサイズ
DIMM 1	32, 64, 128, 256MB
DIMM 2	32, 64, 128, 256MB
DIMM 3	32, 64, 128, 256MB
DIMM 4	32, 64, 128, 256MB
合計	32MB (DIMM 1スロットのみ使用) から1GB (256MBメモリ×4枚) まで

1. PDB-RのDIMMスロットの位置を確認してください。
2. DIMMモジュールの両脇に1つずつ、下部には2つの切り欠けがあります。下部の切り欠けは20ピン、60ピン、88ピンで分かれており、正しい位置でなければDIMMスロットに差し込めないようになっています。
3. 切り欠けの位置を合わせたら両手を使ってまっすぐに差し込んでください。正しい位置に収まるとDIMMスロットのタブがモジュールの両脇にある切り欠けに入りロックします。
4. 2枚目以降も同様の手順で取り付けてください。

ステップ3：CPUの取り付け

PDB-Rはスロット1を2つ搭載しており、デュアルPentiumⅡ/Ⅲに対応しています。

1. まずリテンションハンドルを持ち上げてください。
2. CPUにヒートシンクを取り付けてください。
3. SECカートリッジ (Pentium本体) をカチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。スロット1のCPU-2側には440BXチップセットがありますので、ヒートシンクが当たらないよう十分注意してください。
4. SECカートリッジをリテンションハンドルの穴に固定してください。

重要

Single CPUでお使いの時はCPU-1側に取り付けて下さい。このときCPU-2にはターミネーションカードを挿す必要はありません。

ステップ4：ケーブルの接続

この章ではPDB-Rの各種コネクタについて説明します。レイアウト図を見ながらコネクタの位置を確認してください。

アイテム	コネクタ	ページ
1	ATX電源コネクタ	1-1 1
2	フロッピーディスクドライブコネクタ	1-1 1
3	プライマリ/セカンダリIDEコネクタ	1-1 2
4	チャンネル0/チャンネル1 IDE RAIDコネクタ	1-1 3
5	リセットスイッチ	1-1 4
6	SCSIハードディスク活動LED	1-1 4
7	ハードディスク活動LED	1-1 5
8	スピーカーコネクタ	1-1 5
9	ATX電源スイッチ/ソフトパワースイッチ	1-1 5
10	システムパワーLED	1-1 5
11	ケースファン・CPUファン・予備ファンコネクタ	1-1 5
12	IrDA準拠赤外線モジュールコネクタ	1-1 6
13	Wake-On-Lan	1-1 7
14	PS/2マウスコネクタ	1-1 8
15	PS/2キーボードコネクタ	1-1 8
16	USB(Universal Serial Bus)ポート1&2	1-1 9
17	パラレルポートコネクタ	1-1 9
18	シリアルポートコネクタCOM1&COM2	1-1 9
19	SB Link(J22)	1-2 0
20	PCケース開閉センサ	1-2 0

重要

フラットケーブルは常に赤い線がコネクタのPin 1側になるように接続してください。IDEフラットケーブルは、全長が46 cm以内、先端のコネクタと二番目のコネクタの間隔が15 cm以内のものを使用してください。

1. ATX電源コネクタ(20-pin ATXPWR)

このコネクタにATX電源からのケーブルを接続します。コネクタの向きを確認して差し込んでください。

Wake On Lanの5ボルトスタンバイケーブル(+5VSB)を使用する場合はATX電源から最低でも720

m Aの供給が必要です。

2. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-pin FLOPPY)

このコネクタにはフロッピーディスクドライブ用のフラットケーブルを接続します。1ピンの位置を合わせてケーブルの一方をこのコネクタに、もう一方をフロッピーディスクドライブに接続してください。

3. プライマリ/セカンダリ I D Eコネクタ (Two 40-pin IDE)

このケーブルに I D Eハードディスクドライブ用フラットケーブルを接続します。1ピンの位置を合わせてケーブルの一方をこのコネクタに、もう一方をハードディスクドライブに接続してください。1本のケーブル

に
二台のハードディスクを接続する場合、先端に接続したハードディスクのジャンパはマスタに設定し、ケーブルの中間のコネクタに接続したハードディスクのジャンパはスレーブに設定してください。ジャンパの設定

は
ハードディスクの取扱説明書に従ってください。B I O Sの設定により I D Eハードディスクドライブまたは
A T A P I C D-R O Mドライブからシステムを起動できます。(第2章 "Advanced BIOS Features"を参照してください。)

ケーブルを接続する向きを間違えないようにコネクタのピン20の位置は塞がっています。

ヒント

2本のフラットケーブルを使用することで2つのハードディスクを2つの I D Eチャンネルにそれぞれマ
ス
タで接続することができます。

4. チャンネル0/チャンネル1 I D E R A I Dコネクタ

P D B-Rには独立したR A I Dチャンネルを搭載しています。ここに I D Eハードディスクを接続してディスクアレイにできます。ハードディスクはUltraDMA/66, UltraDMA/33, P I Oモード3/4, バスマスタ I D E DMAモード2で動作可能です。

重要

A T A/66ハードディスクを接続するときはA T A/66用ケーブルを使用してください。R A I DコネクタにはC D-R O M等のA T A P Iドライブを絶対に接続しないでください。

5. リセットスイッチ (RESET)

この2つのピンにはパソコンケースのリセットスイッチを接続します。電源のオン/オフを行わず電氣的負荷が少ないため通常の再起動には電源ボタンではなくリセットボタンを使います。

6. S C S Iハードディスク活動 L E D (4-pin SCSI_HD)

このコネクタにはパソコンケースにある S C S Iハードディスク用 L E D端子を接続します。S C S I機器が読み書きを行うとケースの前面パネルの L E Dが点灯します。

7. ハードディスク活動 L E D (2-pin HDD_LED)

このコネクタにはパソコンケースにある I D Eハードディスク用 L E D端子を接続します。プライマリ/セカンダリを問わずハードディスクが読み書きを行うとケースの前面パネルの L E Dが点灯します。

8. スピーカーコネクタ (4-pin SPEAKER)

ピン1とピン2にジャンパキャップを被せるとマザーボード上のブザーが鳴ります。パソコンケースのスピーカーを鳴らすにはジャンパキャップを外してスピーカーケーブルを接続してください。

9. A T X電源スイッチ/ソフトパワースイッチ (2-pin PWR_SW)

このコネクタにはパソコンケースにある電源スイッチ端子を接続します。システム起動中に電源ボタンを押すとスリープモードになり、もう一度押すとスリープモードを解除します。4秒以上押し続けた場合は電源を

強

制的に切断します。

10. システムパワーLED (3-pin PWR_LED)

このコネクタにはパソコンケースにあるシステムパワーLED端子を接続します。システムが起動中はLEDが点灯します。スリープモードの場合はLEDが点滅します。

11. ケースファン・CPUファン・予備ファンコネクタ(3-pin FAN)

クーラーファン用電源コネクタが5箇所にあります。CPUファン用が2箇所、ケースファン用が1箇所、予備が2箇所です。いずれのコネクタも500mA(6W)以下のクーラーファンに対応しています。ファンメーカーによりコネクタの形状が異なる場合があります。通常赤いケーブルがプラス、黒いケーブルが

マイナスです。極性に注意して接続してください。

メモ

ファンの回転数を監視するには回転数信号に対応したピンを持つファンを使用してください。

警告

CPUにファンを取り付けずに電源を入れるとCPUまたはマザーボードがオーバーヒートのため故障します。またクーラーにフラットケーブルが被さる等CPU周りの換気が不十分な場合、またはファンコネクタを取り付ける向きが逆の場合でも故障の原因となります。

ファンコネクタはジャンパではありません。決してジャンパキャップを被せないでください。

12. IrDA準拠赤外線モジュールコネクタ(10-pin IR)

このコネクタにオプションのIrDAポートを接続すると赤外線通信ができます。この機能を利用するには赤外線モジュールをパソコンケースの隙間が開いた部分に取り付けてください。CMOSセットアップユーティリティの”Integrated Peripherals”で”UART Mode Select”を”IrDA”にしてください。接続するコネクタが10ピンでも5ピンでもピン1の位置を合わせて取り付けてください。

13. Wake-On-Lan (3-pin WOL)

このコネクタとLANボードのWake-On-Lan出力をケーブルで接続します。LANボードからパケットまたは信号を受け取るとシステムが起動します。

重要

この機能には720mA以上の電力を供給し、5ボルトスタンバイケーブル(+5VSB)に対応したATX電源が必要です。

14. PS/2マウスコネクタ(6-pin Female)

このコネクタにPS/2マウスを接続するとシステムはマウスにIRQ12を割り当てます。マウスを接続しない場合は拡張ボードのためにIRQ12を割り当てることができます。

15. PS/2キーボードコネクタ(6-pin Female)

このコネクタにはPS/2キーボードを接続します。ATキーボードを使う場合はAT→PS/2変換コネクタが必要です。

16. USB(Universal Serial Bus)ポート1&2(Two 4-pin Female)

ここにはUSB機器を接続します。

17. パラレルポートコネクタ(25-pin Female)

プリンタ等のパラレル機器を接続します。CMOSセットアップユーティリティの”Integrated Peripherals”でIRQを選択することができます。

18. シリアルポートコネクタCOM1&COM2(9-pin Male)

ポインティングデバイス等シリアル機器を接続します。

19. SB_Linkコネクタ(6-pin DMA_HEADER)

Sound Blaster 互換のPCIサウンドボードを使いリアルモードDOSゲームやマルチメディアアプリケーション

ョンを実行することができます。SB_LinkはマザーボードとPCIサウンドボード間のデータをISAバス経由でやりとりします。

20. PCケース開閉センサ (2-pin CHA)

PCケースのサイドパネルが開いているとき、またはドライブベイの扉が開いているときに信号を送ります。PCケースが開閉センサに対応している場合のみ使用します。第2章セクション8 ” Chassis Intrusion” を参照してください。

ステップ5：拡張カードの取り付け

警告

拡張ボード等のパーツを着脱する際は電源を完全に切り、電源ユニットのコンセントを抜いてください。通電した状態で着脱を行うとパーツまたはマザーボードが故障する場合があります。

1. 拡張ボードの取り付け手順

1. 1 拡張ボードの取扱説明書を読み、ジャンパの設定やソフトウェアの設定を行ってください。
1. 2 パソコンケースに付いているダミーブラケットのうち使用するスロットの位置にあるものを外してください。外したブラケットは保管しておいてください。
1. 3 拡張ボードのコネクタとスロットの位置を合わせ、しっかりと差し込んでください。
1. 4 ダミーブラケットを固定していたネジを使って拡張ボードをケースに固定してください。
1. 5 ステップ6の操作を行えば完了です。必要に応じてCMOSセットアップユーティリティでIRQやDMAの設定を行ってください。

2. PCI 拡張ボードへのIRQ割り当て

PCI 拡張ボードのIRQは自動的に割り当てられます。PCI 拡張ボードが要求するIRQをBIOSが認識してそのIRQを割り当てます。もしPCI 拡張ボードに割り込み (interrupt) に関するジャンパがあれば、INTAにセットしてください。

ステップ6：電源投入

1. 付け機器を含めすべての電源が切れていることを確認してください。電源スイッチのオフ側に”O”マーク、オン側に”-”マークがついているものは、”O”マークが押し込まれた状態であることを確認してください。

2. ジャンパのセットやコネクタの接続がすべて完了したらパソコンケースのカバーを閉じてください。
3. パソコン本体の電源ユニットにコンセントケーブルを接続してください。
4. 電源コンセントはアースするか、または漏電保護プラグに差してください。
5. 以下の順に電源を投入してください。
 - ①ディスプレイ
 - ②外付けSCSI機器（チェーン上の終端機器から）
 - ③その他の外付け機器（モデム等）
 - ④パソコン本体

ATX電源ユニットを使用している場合はパソコン本体の電源を入れる前に電源ユニットの電源を入れてください。

6. パソコンの電源を入れると前面パネルのLEDが点灯します。ディスプレイがグリーンモードやスタンバイ機能に対応している場合は本体LEDの次にディスプレイのLEDが点灯します。起動するとシステムはパワーオンセルフテスト（POST）を行います。画面にはテスト結果等いくつかの情報を表示します。電源投入後30秒以内に画面に何も表示しない場合はPOSTに失敗しています。ジャンパの設定、ケーブル類の接続（緩んでいないか、向きは正しいか）を確認してください。ピープ音がある場合はドライブ類の接続やBIOSの設定（CPUのクロック設定）を見直してください。問題が解決しないときはお買い上げの販売店にご相談ください。
7. パワーオンセルフテスト（POST）中に<Delete>キーを押すとBIOSの設定ができます。（CMOSセットアップユーティリティを起動します）詳細は次章「BIOSの設定」で説明します。

メモ

本体の電源を切断するには先にOSを終了させてください。

第2章 BIOSのセットアップ

この章ではROM BIOSに組み込まれたAMIBIOSセットアップユーティリティについて説明します。このユーティリティによりシステムの基本設定を変更できます。変更した設定はCMOS-RAMに保存します。電源を切ってもマザーボード上の電池によってCMOS-RAMの内容は消えずに残ります。BIOS（Basic Input/Output System）はドライブ類やシリアル/パラレル・ポート等の最も低レベルな入出力制御を行います。

CMOSセットアップの開始

AMIBIOSはコンピュータの電源投入と同時に起動します。BIOSはCMOSからシステム情報を読み込みシステムのチェックとBIOSの設定を開始します。BIOSの設定が完了したらハードディスクからオペレーティングシステムを見つけ、BIOSからオペレーティングシステムへ制御を渡します。以下の何れかの操作を行うとCMOSセットアップユーティリティを起動できます。

1. コンピュータを起動中の画面下方に以下のメッセージを表示している間にキーを押す。
Press DEL to enter SETUP
2. コンピュータの電源投入直後にキーを押す。

キーの押下が間に合わずセットアップユーティリティが起動しなかった場合は、本体のリセットボタンを押すか、<Ctrl><Alt>キーを押しながらキーを押すとシステムが再起動します。以下のメッセージが現れた場合、<F1>キーを押すとシステムの起動を続行し、キーを押すとセットアッププログラムを起動します。

PRESS F1 TO CONTINUE, DEL TO ENTER SETUP

セットアップ・キーの使い方

矢印キーで項目を移動し<Enter>キーで決定します。<PageUp><PageDown>キーで複数の選択肢がある項目の設定を変更できます。<F1>キーでヘルプを表示<Esc>キーでメインメニューへ戻ります。以下の表にキーとその役割を記します。

キー	機能
↑	カーソルを前の項目に移動します
↓	カーソルを後の項目に移動します
←	カーソルを左に移動します(メニュー・バー)
→	カーソルを右に移動します(メニュー・バー)
Esc	メインメニュー:保存せずに終了します サブメニュー:メインメニューに戻ります。
PageUp	選択肢を上に移動します
PageDown	選択肢を下に移動します
+	選択肢を上に移動します
-	選択肢を下に移動します
F1	キー操作のヘルプを表示します ヘルプを消すには再度<F1>キーを押すか<Esc>キーを押してください
F2/F3	背景の色を変えます。
F10	変更をCMOSに保存してユーティリティを終了します

メニューバーでの移動方法

<←><→>キーで移動してください。

サブメニューの表示

<↑><↓>キーで移動して、<Enter>キーを押してください。

サブメニューのある項目の左側には▲マークがあります。

問題が生じた場合

CMOSの変更内容によっては、システムが起動しなくなることがあります。このような場合に備えCMOSセットアップユーティリティでCMOSの設定を初期値に戻すことができます。また、ジャンパ22をショートさせると現在のCMOSの内容を消去することができます。(第1章ステップ1「ジャンパの設定」を参照してください)

CMOS項目のうち内容をよく理解されている項目だけを変更してください。また、チップセットに関する設定は変更しないようにしてください。その標準設定は最高のパフォーマンスと安定性を提供するためにAMIBIOSとR10WORKSが慎重に選んだものです。チップセット項目の変更は性能の低下とシステム障害を引き起こす原因となります。

セクション1 メインメニュー

CMOSセットアップユーティリティを起動すると画面上部にメニューが現れます。

矢印キーで項目を移動できます。

セクション2 Standard CMOS Setup

システムクロック、ビデオタイプ等、基本的なシステムハードウェアの設定ができます。

<PageUp><PageDown>キーで変更したい項目へ移動することができます。

表2-2-1 "Main"

項目	選択肢	備考
Date	MM:DD:YY	システム日付を変更できます。
Time	HH:MM:SS	システム時刻を変更できます。
Drive A Drive B	None 360K, 5.25in 1.2M, 5.25in 720K, 3.5in 1.44M, 3.5in 2.88M, 3.5in	PDB-Rに取り付けたフロッピーディスクのタイプを選んでください。
Primary Master/Slave Secondary Master/Slave	AUTO User 1-46 CDROM FLOPTICAL Not installed	<PageUp><PageDown>キーで選んでください。 (表2-2-2をご覧ください)
Boot Sector Virus protection	Disabled Enabled	Enabledを選ぶとブートセクターへの書き込みを禁止します。

表2-2-2 IDEハードディスクの設定

項目	選択肢	備考
Type	AUTO User 1-46 CDROM FLOPTICAL Not installed	ハードディスクの情報はシステム起動時に自動検出します。 “32 Bit Mode”のみ変更できます。 全ての項目を入力してください。 古いMFMDライブをお使いの場合だけ選択してください。 ハードディスクの説明書に従って設定してください。 ATAPI CD-ROMを接続するときに選択してください。 “Pio Mode”と“32 Bit Mode”も設定してください。 LS120、MO、ZIPを接続するときに選択してください。 “Pio Mode”と“32 Bit Mode”も設定してください。 IDEチャンネルにハードディスクを接続しないときに選択してください。
Size		ハードディスクの容量を指定します。
Cyln(Cylinder)	Min = 0 Max = 65535	ハードディスクのシリンダ数を指定します。
Head	Min = 0 Max = 255	ハードディスクの読み書きヘッド数を指定します。
Wpcom (Write Precompensation)	Min = 0 Max = 65535	ライト・プレコンペンセーションを始めるトラック数を指定します。ハードディスクの説明書に従って設定してください。直径が小さくなるとそれに応じて実際のセクタ・サイズも小さくなります。各セクタは512バイトなければなりません。ライト・プレコンペンセーションはその誤差を補います。
Sec	Min = 0 Max = 255	1トラックあたりのセクタ数を指定します。ハードディスクの説明書に従って設定してください。
LBA Mode	On Off	528MB超～8.4GBのハードディスクでLogical Block Addressing(LBA)昨日が使えます。SCO UNIXの場合は”Off”にしてください。
Blk Mode	On Off	ブロックモードが”On”のときは一度に64KBまでのデータを転送できます。”Off”のときは512バイトです。
PIO Mode	Auto,0,1,2,3,4,5,6	PIOモードはIDEハードディスクとIDEコントローラがデータのやりとりをする間隔を決めます。数字の大きなPIOモードほど間隔が小さくなります。。
32Bit Mode	On	“Off”の場合、ハードディスクはISAバス経由(16ビット)

	Off	でコンピュータに接続します。” On”の場合はP C I 経由 (32 ビット) となります。
--	-----	--

メモ

これらの項目は新しいハードウェアを追加した場合や予期しない原因でCMOSの設定が変わってしまった場合のみ再設定してください。システムが正しく動作している間は設定を変更する必要はありません。

セクション3 Advanced CMOSの設定

このセクションではシステムの起動順序、キーボード操作、シャドウやセキュリティ等、システムの基本的な設定を変更できます。

Quick Boot

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	システムの起動が速くなります。
<i>Disabled</i>	

1st/2nd/3rd Boot Device

OSを収録したデバイスを検索する順番を指定します。選択肢は以下の何れかです。

選択肢 : *Disabled*(検索しない), *Network*, *Floppy* (1ST Boot の初期値), *LS-120*, *ATAPI ZIP*, *CDROM* (3RD Bootの初期値), *SCSI, IDE-0* (2ND Boot の初期値), *IDE-1*, *IDE-2*, *IDE-3*

メモ

IDE RAID からシステムを起動させる場合は、1ST Boot Device に ” SCSI” を指定してください。

Try Other Boot Devices

選択肢	備考
<i>Yes</i> (Default)	1st/2nd/3rd Boot Device のいずれにも起動ドライブが見つからない場合、他のドライブを探しにいきます。
<i>No</i>	

Floppy Access Control

フロッピーディスクからシステムを起動するときにセットしてください。

選択肢	備考
<i>Read-Write</i> (Default)	フロッピーディスクの読み込みと書き込みができます。
<i>Read-Only</i>	フロッピーディスクの読み込みだけがができます。

Hard Disk Access Control

ハードディスクからシステムを起動するときにセットしてください。

選択肢	備考
<i>Read-Write</i> (Default)	ハードディスクの読み込みと書き込みができます。
<i>Read-Only</i>	ハードディスクの読み込みだけがができます。

S.M.A.R.T for Hard Disk

選択肢	備考

<i>Enabled</i>	BIOS が SMART(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) プロトコルを使うことを許可します。
<i>Disabled (Default)</i>	

BootUp Num -Lock

選択肢	備考
<i>On (Default)</i>	システム起動時に Num Lock キーをオンにします。
<i>Off</i>	

Floppy Drive Swap

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	フロッピードライブのドライブ名の A : と B : を交換します。
<i>Disabled (Default)</i>	フロッピードライブは通常のドライブ名になります。

Floppy Drive Seek

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	システム起動時にドライブ A : を検索します。
<i>Disabled (Default)</i>	

PS/2 Mouse Support

選択肢	備考
<i>Enabled (Default)</i>	BIOS は PS/2 タイプのマウスをサポートします。
<i>Disabled</i>	

Primary Display

接続するディスプレイの種類を以下の中から選んでください。初期値は「なし」です。

選択肢 : *Mono, CGA40x25, CGA80x25, VGA/EGA, Absent (Default)*

Password Check

セクション 10 ” Change User/Supervisor Password” を参照してください。

選択肢	備考
<i>Setup (Default)</i>	BIOS のセットアップを行うときにパスワード入力プロンプトが現れます。
<i>Always</i>	パソコンの起動時にパスワード入力プロンプトが現れます。

Boot To OS/2 >64MB

選択肢	備考
<i>Yes</i>	64MB を超えるメモリを使い OS / 2 を稼働させるときに選択します。
<i>No (Default)</i>	

CPU Serial Number

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	PENTIUM III のプロセッサナンバーを表示します。
<i>Disabled (Default)</i>	

L1 Cache

L1 内部キャッシュのキャッシュ・タイプをセットします。

選択肢 : *WriteBack (Default), WriteThru, Disabled*

System BIOS Cacheable

選択肢	備考
-----	----

<i>Enabled</i> (Default)	システムメモリセグメント F0000h の内容をキャッシュメモリと受け渡しできます。メモリセグメントの内容は常にBIOS ROMからシステム RAM へコピーされるので実行が早くなります。
<i>Disabled</i>	

System BIOS Write Protect

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	BIOS に書き込めないように保護します。
<i>Disabled</i>	BIOS の書き換えができます。

MP OS Support

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	マルチプロセッサに対応したOSを起動すると Dual CPU が有効になります。
<i>Disabled</i>	

MP Version

マルチプロセッサ・バージョンを選択できます。

選択肢： *Version1.1* (Default), *Version 1.4*

C000/C400 16K Shadow

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	ビデオ ROM 領域 (C0000h - C7FFFh) の内容が RAM の同じアドレスに書き込まれます。
<i>Cached</i> (Default)	ビデオ ROM 領域 (C0000h - C7FFFh) の内容が RAM の同じアドレスに書き込まれ、キャッシュメモリにも書き込み・読み込みが出来ます。
<i>Disabled</i>	ビデオ ROM 領域の内容は RAM にコピーしません。キャッシュメモリとも書き込み・読み込みが出来ません。

C800,16K/CC00,16K/D000,16K/ D400,16K/D800,16K/DC00,16K Shadow

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	ROM 領域の内容が RAM の同じアドレスに書き込まれます。
<i>Cached</i>	ROM 領域の内容が RAM の同じアドレスに書き込まれ、キャッシュメモリにも書き込み・読み込みが出来ます。
<i>Disabled</i> (Default)	ROM 領域の内容は RAM にコピーしません。キャッシュメモリとも書き込み・読み込みが出来ません。

セクション4 Advanced Chipset の設定

チップセットに関する設定を変更できます。チップセットはバススピードやDRAM・外部キャッシュといったリソースのアクセスを管理します。チップセットのパフォーマンスを最適にする設定がすでにしてありますので特に変更する必要はありません。

メモ

スピードの異なるメモリモジュールを取り付けるとシステムが不安定になることがあります。この場合ディレイ時間を増やすことで解決するかもしれません。

CPU Frequency Selection

オーバークロックの設定ができます。

FSBが66MHzの場合の選択肢： *66.8Mhz* (Default), *75.0Mhz*, *83.3Mhz*

FSBが100MHzの場合の選択肢： *100Mhz* (Default), *103Mhz*, *112Mhz*

CPU Ratio Selection

CPUの内部稼働倍率を指定します。

選択肢： 3.0X (Default), 3.5X, 4.0X, 4.5X, 5.0X, 5.5X, 6.0X, 6.5X, 7.0X

Configure SDRAM Timing by SPD

SDRAMのタイプ、サイズ、スピードといった情報をシステムに提供します。

選択肢： Disabled (Default), Enabled

SDRAM RAS# to CAS# Delay

SDRAMにアクセスするときのアクティブ信号と読み込み信号の間の待ち時間を指定します。

選択肢： 2 SCLKs, 3SCLKs(Default)

SDRAM RAS# Precharge

SDRAMへのPrechargeコマンド発行後のアイドルクロックを指定します。

選択肢： 2 SCLKs, 3SCLKs(Default)

SDRAM CAS# Latency

SDRAM読み取りコマンドとデータを実際に使えるまでの待ち時間を指定します。

選択肢： 2 SCLKs, 3SCLKs(Default)

SDRAM Leadoff Cmd Timing

SDRAMの Leadoff コマンドのタイミングを指定します。

選択肢： 3 SCLKs, 4 SCLKs, or Auto(Default)

DRAM Integrity Mode

選択肢	備考
Non-ECC (Default)	システムメモリのエラーチェックを行いません。
ECC	マルチビットのエラーはレポートを作成します。シングルビットのエラーはチップセットが訂正します。訂正ビットはSDRAMに書き戻しません。
ECC Hardware	マルチビットのエラーはレポートを作成します。シングルビットのエラーはチップセットが訂正します。訂正ビットはSDRAMに書き戻します。

DRAM Refresh Rate

DRAMのリフレッシュ信号の間隔を指定します。

選択肢： 15.6 μ s (Default), 31.2 μ s, 62.4 μ s, 124.8 μ s, or 7.8 μ s

Memory Hole

選択肢	備考
Disabled (Default)	ISAバス用にメモリアドレスを割り当てません。
15MB-16MB	ISAバス用に15~16MBメモリアドレスを確保します。。

VGA Frame Buffer USWC

選択肢	備考
Enabled	VGA USWC フレームバッファが有効になります。
Disabled (Default)	VGA USWC フレームバッファが無効になります。

PCI Frame Buffer USWC

選択肢	備考
-----	----

<i>Enabled</i>	PCI USWC フレームバッファが有効になります。
<i>Disabled</i> (Default)	PCI USWC フレームバッファが無効になります。

USWC Write Post

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	USWCから I/O への書き込みが有効になります。
<i>Disabled</i> (Default)	USWC から I/O への書き込みが無効になります。

Graphics Aperture Size

システムメモリのうちAGPが使える大きさを指定します。

選択肢 : 4 MB, 8 MB, 16 MB, 32 MB, 64 MB (Default), 128 MB, or 256 MB

Search for DMA Resources

選択肢	備考
<i>Yes</i>	BIOS に DMA リソースを検索させます。
<i>No</i> (Default)	

USB Passive Release

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	USB passive release
<i>Disabled</i>	

PIIX4 Passive Release

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	Passive release
<i>Disabled</i>	

PIIX4 Delayed Transaction

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	Delay transactions
<i>Disabled</i> (Default)	

USB Function

選択肢	備考
<i>Enabled</i> (Default)	USBが使えるようになります。
<i>Disabled</i>	

USB KB/Mouse Legacy Support

選択肢	備考
<i>Keyboard</i>	DOS モードで USB キーボード/マウスが使えます。
<i>Disabled</i> (Default)	

セクション5 Power Management の設定

ACPI Aware O/S

常に " Yes" にしておいてください。

選択肢 : *Yes*(Default), *No*

Power Management /APM

" Enabled" でチップセットが提供する電源管理機能が使えるようになります。

選択肢 : *Enabled* (Default) or *Disabled*

Green PC Monitor Power State

“ Power Management /APM” が “ Enabled” の場合にディスプレイの電源管理を設定できます。
P Cを一定時間使わなかったときにディスプレイをどの状態にするか選んでください。

選択肢 : *Standby (Default), Suspend, Off*

Video Power Down Mode

“Power Management /APM” が “ Enabled” の場合にビデオボードの電源管理を設定できます。
P Cを一定時間使わなかったときにビデオボードをどの状態にするか選んでください。

選択肢 : *Standby, Suspend(Default), Disabled*

Hard Disk Power Down Mode

“Power Management /APM” が “ Enabled” の場合にハードディスクの電源管理を設定できます。
P Cを一定時間使わなかったときにハードディスクをどの状態にするか選んでください。

選択肢 : *Standby(Default), Suspend, Disabled*

Standby Time Out (Minute)

“Power Management /APM” が “ Enabled” の場合にP Cをスタンバイモードにするまでの時間を設定します。

選択肢 : *Disabled (Default), 1 min, 2 min, 4 min, 8 min, 10 min, 20 min, 30 min, 40 min, 50 min , 60 min*

Suspend Time Out (Minute)

“Power Management /APM” が “ Enabled” の場合にP Cをサスペンドモードにするまでの時間を設定します。

選択肢 : *Disabled (Default), 1 min, 2 min, 4 min, 8 min, 10 min, 20 min, 30 min, 40 min, 50 min, 60 min*

Modem Uses IO Port

モデムを接続するポートを選びます。

選択肢 : *3F8H/COM1 (Default), 2F8H/COM2, 3E8H/COM3, 2E8H/COM4 , N/A*

Modem Uses IO Port

モデムに割り当てる I R Qを指定します。

選択肢 : *IRQ3, IRQ4, IRQ5, IRQ7, IRQ9, IRQ10, IRQ11 and N/A*

Display Activity

“ Monitor” を選ぶとディスプレイの活動状況を BIOS が監視します。

選択肢 : *Monitor, Ignore*

**Device 6 (Serial Port 1)/ Device 7 (Serial Port 1)/Device 8 (Parallel Port)/ Device 5 (Floppy Disk)/
Device 0 (Primary Master IDE)/Device 1 (Primary Slave IDE)/ Device 2 (Secondary Master IDE)/
Device 3 (Secondary Slave IDE)**

“ Monitor” を選ぶと I R Qの活動状況を BIOS が監視します。

選択肢 : *Monitor, Ignore*

Power Button Function

A T X電源ボタンの機能を設定します。 ” On/Off” を選んだ場合ボタンを押すと電源を切断します。

“ Suspend” を選んだ場合ボタンを4秒未満押すとスリープモードになり、4秒以上押すと切断します。

選択肢 : *On/Off (Default), Suspend*

Restore On AC/Power Loss

システムの稼動中に電源が落ちたとき、” Power On” にしていると電源投入後は通常に再起動します。
”Last State”にしていると電源投入後は電源が落ちる前の状態に戻ります。

選択肢 : *Last State (Default), Disabled, Power Off, Power On*

Ring Resume From Soft Off

外付けモデムの受電によりソフトオフの状態から立ち上げられるようになります。

選択肢 : *Disabled (Default), Enabled*

LAN Resume From Soft Off

LANから信号を受け取るとソフトオフの状態から立ち上げられるようになります。

選択肢 : *Disabled (Default), Enabled*

RTC Resume From Soft Off

リアルタイムクロックに設定した時刻にソフトオフの状態から立ち上げられるようになります。

選択肢 : *Disabled (Default), Enabled*

RTC Alarm Date/Hour/Minute/ Second

ソフトオフの状態から立ち上げる時刻をセットします。

セクション6 PCI/Plug and Playの設定

Plug and Play Aware O/S

“ Yes”を選ぶとOSがプラグアンドプレイ機器を扱うことができます。

選択肢 : *No (Default), Yes*

PCI Latency Timer (PCI Clocks)

PCIスロットに取り付けたボードのPCIクロックを設定します。

選択肢 : *32, 64 (Default), 96, 128, 160, 192, 224, or 248*

Primary Graphics Adapter

メインで使うビデオボードがAGPかPCIかを指定します。

選択肢 : *AGP (Default), PCI*

PCI Palette Snoop

ISAバスにビデオボードを取り付けたときに “ Enabled” を選択します。

選択肢	備考
<i>Enabled</i>	PCI VGA と ISA VGA の両方が同時にCPUと直接データのやりとりを行います。
<i>Disabled (Default)</i>	CPUはPCI VGA とだけ直接データのやりとりを行います。

Allocate IRQ to PCI VGA

“ Yes”を選択するとPCIバスに接続したビデオボードにIRQを割り当てます。

選択肢 : *Yes (Default), No*

PCI IDE Bus Master

“ Enabled” を選択するとIDEバスマスタが有効になります。

選択肢 : *Disabled, Enabled (Default).*

OffBoard PCI IDE Card

PCIバスにIDE増設ボードを取り付けたときに設定します。増設ボードのIDEコントローラが使われるとオンボードのIDEコントローラは自動的に無効となります。”Auto”を選択するとBIOSが自動的にIDEコントローラを取り付けたスロットを見つけて設定します。IRQ14,15は強制的にPCIローカルバス用に割り当てられます。

選択肢 : *Auto (Default), Slot1, Slot2, Slot3, Slot4, Slot5, or Slot6*

OffBoard PCI IDE Primary IRQ

増設ボード上のIDEコントローラでプライマリとしてIRQを割り当てるIDEチャンネルを指定します。

選択肢 : *: Disabled (Default), Hardwired, INTA, INTB, INTC, INTD.*

OffBoard PCI IDE Secondary IRQ

増設ボード上のIDEコントローラでセカンダリとしてIRQを割り当てるIDEチャンネルを指定します。

選択肢 : *Disabled (Default), Hardwired, INTA, INTB, INTC, INTD.*

DMA Channel 0/1/3/5/6/7

DMA (Direct Memory Access)チャンネル毎にバスタイプを設定します。

選択肢 : *PnP (Default), ISA/EISA ..*

IRQ 3/4/5/7/9/10/11/14/15

特定のIRQの割り当てを必要とするISAバス用ボードを使用する場合に”ISA/EISA”を選択してください。

選択肢 : *ISA/EISA, PCI/PnP (Default)*

Reserved Memory Size

ISAバス用ボードのために割り当てる記憶域のサイズを指定します。

選択肢 : *Disabled (Default), 16K, 32K, 64K*

Reserved Memory Address

ISAバス用ボードのために割り当てた記憶域の開始アドレスを指定します。

選択肢 : *C0000, C4000, C8000 (Default), CC000, D0000, D4000, D8000, DC000*

セクション7 Peripheral Setup

OnBoard RAID Presence

“Enabled”を選ぶとオンボードのRAIDコントローラが使えます。

選択肢 : *Enabled (Default), Disabled*

OverVoltage

“Enabled”を選ぶとCPUにかかる電圧を規定値よりも上げられます。オーバークロックするときだけに設定してください。

選択肢 : *Disabled (Default), Enabled*

OnBoard FDC

“Enabled”を選ぶとオンボードのフロッピードライブコントローラが使えるようになります。

選択肢 : *Auto (Default), Enabled, Disabled*

OnBoard Serial Port A

シリアルポート 1 のベース I/O ポートアドレスを設定します。

選択肢 : *Auto* (Default), *Disabled*, *3F8h*, *2F8h*, *2E8h*, *3E8h*

OnBoard Serial Port B

シリアルポート 2 のベース I/O ポートアドレスを設定します。

選択肢 : *Auto* (Default), *Disabled*, *3F8h*, *2F8h*, *2E8h*, *3E8h*

IR I/O Location Select

“ IRRX/IRTX ” を選ぶと赤外線によるデータ伝送が行えます。(第 1 章ステップ 4-12 を参照してください)

選択肢 : *IRRX/IRTX*, *SINB/SOUTB* (Default).

Serial Port B Mode

シリアルポート B の操作モードを指定します。 ” Normal ” を選ぶとシステムは赤外線モジュールを使えなくなります。

選択肢 : *Normal*, *IrDA*, *ASK IR*

IR Duplex Mode

赤外線データ伝送の方法を指定します。全二重方式か半二重方式を選べます。

選択肢	備考
<i>Full Duplex</i>	データの送信と受信を同時に行うため高速です。すべての赤外線装置が全二重方式に対応しているわけではありませんのでご注意ください。
<i>Half Duplex</i>	データは常に一方通行で、送信と受信を同時に行えません。

IrDa Protocol

赤外線プロトコルを指定します。

選択肢 : *1.6us* (Default), *3/16*.

OnBoard Parallel Port

パラレルポートのベース I/O ポートアドレスを設定します。

選択肢 : *Auto*, *Disabled*, *378h*, *278h*, *3BCh*

OnBoard Parallel Mode

“ OnBoard Parallel Port ” で ” Disabled ” を選択した場合、このオプションは変更できません。

選択肢	備考
<i>EPP</i>	EPP (拡張パラレルポート) 仕様に固定されます。送信速度と受信速度が異なってもデータ伝送ができます。
<i>Normal</i>	通常モードになります。
<i>Bi-Dir</i>	パラレルポートでデータの送信と受信を行います。
<i>ECP</i>	ECP (拡張性能ポート) 仕様に固定されます。DMA プロトコルを用いて伝送速度を 2.5 メガビット/秒まで引き上げます。

EPP Version

拡張パラレルポート (EPP) 仕様のバージョンを指定します。 ” OnBoard Parallel Mode ” で ” EPP ” を指定した場合に変更できます。

選択肢 : *1.7*, *1.9*

Parallel Port IRQ

パラレルポートに割り当てる I R Q を指定します。

選択肢 : *Auto, (IRQ)5, (IRQ)7*

Parallel Port DMA Channel

パラレルポートが使う DMA チャンネルを指定します。 ” OnBoard Parallel Mode” で ” ECP” を指定した場合に変更できます。

選択肢 : *Auto, (DMA Channel)0, 1, 3*

KB Wake-up Function

“ Specific-Key” を選ぶとキーボードでシステムを立ち上げられます。

Enter New Keyboard Wake up Password :

が現れたらパスワードを登録してください。システムを起動するときにパスワードの入力を求められるようになります。

選択肢 : *Disabled, Specific-Key, Any Key*

OnBoard IDE

オンボード IDE コントローラに使われる I D E チャンネルを指定します。

選択肢 : *Disabled, Primary, Secondary, Both(Default)*

セクション 8 Hardware Monitor Setup

System Thermal

“Monitor” を選択すると C P U が以下の ” Thermal Slow Clock Ratio” と ” CPU Critical Temperature” で設定した温度を超えたときにシステムを保護します。

選択肢 : *Ignore (Default), Monitor*

Thermal Slow Clock Ratio

C P U の温度が ” CPU Critical Temperature” での設定値を超えた場合、C P U のクロック倍率を引き下げます。
”System Thermal” で ” Monitor” を選択した場合に変更できます。

選択肢 : *0-12.5%, 12.5-25%, 25-37.5%, 37.5-50%, 50-62.5% (Default), 62.5-75%*

CPU Critical Temperature

C P U クロック倍率を下げる基準とする温度を設定します。

選択肢 : *45C/113F, 50C/122F, 55C/131F, 60C/140F, 65C/149F (Default), 70C/158F, 75C/167F*

Chassis Intrusion

“ Reset” を選択した場合、電源投入時に P C ケースが開いていると以下のメッセージを表示します。
但し、P C ケースがこの機能に対応していなければなりません。

Your computer case had been opened...

選択肢 : *Reset, Disabled*

Select Monitor VCC Core:

C P U コアをモニターします。

選択肢 : *Vccore1 (Default), Vccore2*

セクション9 Auto-Detect Hard Disks

BIOSが走査・設定したIDEハードディスクの情報を表示します。BIOSが自動設定した場合、速さを優先します。最適な設定にするにはハードディスクの説明書に従い変更してください。

セクション10 Change User/Supervisor Password

SUPERVISSOR PASSWORD

BIOS設定メニューの参照と変更の権限を持つパスワードです。

USER PASSWORD

BIOS設定メニューの参照のみの権限を持つパスワードです。

ENTER PASSWORD

8文字以内のパスワードを入力して <Enter> キーを押してください。<Esc> キーを押すとキャンセルします。

PASSWORD DISABLED

登録済みのパスワードを無効にします。

セクション11 Auto Configuration with Optimal/Fail Safe Settings

Load Fail-Safe Defaults

Load Fail-Safe Defaults (Y/N)? **N**

ここで” Y” を入力して <Enter> キーを押すと、BIOSの設定を最も安全な規定値にします。

Load Optimized Defaults

Load Optimized Defaults (Y/N)? **N**

ここで” Y” を入力して <Enter> キーを押すと、BIOSの設定をパフォーマンスが最適となる既定値にします。
(工場出荷時と同じ状態)

メモ

初めてBIOSの設定を変えるときには、まず” Load Optimized Defaults”を行ってください。

セクション12 Save Setting and Exit

Save & Exit Setup

Save to CMOS and EXIT (Y/N)? **Y**

ここで” Y” を入力するとBIOS設定の変更を保存して終了します。

Exit Without Saving

Quit without saving (Y/N)? **Y**

ここで” Y” を入力するとBIOS設定の変更を保存せずに終了します。

第3章 FastBuild™ の設定

FastBuild™ で P D B - R 上のディスクアレイを作成・管理できます。

FastTrak (tm) FastTrak66 (tm) BIOS Version 1.XX(Build XXXX) (c)1995-99 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved				
ID	Mode	SIZE	TRACK-MAPPING	STATUS
1*	2-0 Stripe	13044M	611/128/32	Functional
2	1x2 Mirror	6522M	620/32/63	Functional

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility

BIOS起動画面

システムの立ち上げ時に上図の Promise BIOS 画面が出てきます。RAID BIOSのバージョンとアレイの状況がわかります。アレイの状況は以下の3種類あります。

Functional

アレイは正常に稼動中です。

Critical

ミラーリングアレイを構成するハードディスクの中に障害のあるドライブがあります。または、接続していないハードディスクがあります。正常なハードディスクの方は稼動し続けます。

FastBuild™ のメニューから問題のあるハードディスクを特定できるので交換してください。

Offline

ミラーリングアレイを構成する2台以上のハードディスク、あるいは、ストライピングアレイを構成する1台以上のハードディスクに障害があります。または、接続していません。速やかにハードディスクを交換して、バックアップデータを復元してください。

FastBuild™ セットアップメニューの操作方法

<↑↓→←>キーでカーソルを移動します。<スペース>キーでオプションを選択します。<Enter>キーでオプションを決定します。<Esc>キーでキャンセル、または、1画面前のメニューに戻ります。

<Ctrl>キーを押しながら<Y>キーを押すと変更した設定を保存します。

セクション1 メインメニュー

FastBuild™ の設定メニューに入ると最初に以下のオプションを表示します。

```
FastBuild (tm) Utility 1.XX (c) 1995-99 Promise Technology, Inc.
                                [Main Menu]

Auto Setup .....[1]
View Drive Assignments.....[2]
Define Array.....[3]
Delete Array.....[4]
Rebuild Array.....[5]
Controller Configuration.....[6]

                                [Key Available]
                                Press 1...6 to Select Option   [ESC] Exit
```

アレイを新規作成する場合は [1] “ Auto Setup” または、 [3] “ Define Array.”を選んでください。
アレイを修復するときは [5] “ Rebuild Array.”を選んでください。

セクション2 自動セットアップ

Auto Setup を選ぶと直感的にディスクアレイの設定ができます。
利用できるすべてのハードディスクを使って適切な設定を行います。

```
FastBuild (tm) Utility 1.XX (c) 1995-99 Promise Technology, Inc.
                                [Array Setup Options Menu]

Optimize Array for:.....Performance
Typical Application usage:.....General

                                [Array Setup Confgiuarition]
Mode.....Stripe
Spare Drive Count.....1
Drive used in Array.....2
Array Disk Capacity.....13044 .

                                [Key Available]

[↑] Up [↓] Down [←,→,Space] Change Option [ESC] Exit [Ctrl-Y] Save
```

Optimize Array for

“ optimize Array for” には以下の3つの選択肢があります

Choice	Description
Performance (Striping)	アクセス速度が最も速くなります。 アレイを構成するハードディスクの中で最も少ない容量のハードディスクを基準にしてアレイの容量が決まります。 アレイの容量=基準容量×ハードディスクの台数
	ストライプ・ブロック・セクターを変更できます。 8KB : 業務用アプリケーション向き

	64KB : サーバー、オーディオ/ビデオ編集向き
Security (Mirroring)	ハードディスクに障害が発生した場合にデータを復旧できます。
Capacity (Spanning).	容量が最も大きくなります。アレイを構成するハードディスクの容量の合計がアレイの容量となります。

Typical Application usage

アクセス速度を速めるために最適なタイプを選べます。

Spare Drive Count

アレイに属していないハードディスクの台数です。ミラーリングアレイの障害に備える予備とすることができません。障害の発生したハードディスクを検知するとアレイから切り離し、予備のハードディスクにデータをコピーしてアレイを再構成します。一連の処理はバックグラウンドで自動的に行い、システムを再起動する必要はありません。

複数のディスクアレイを作る方法

方法 1

1. 1つ目のアレイに必要なハードディスクだけを接続して” Auto Setup”を行ってください。
2. 次に、2つ目のアレイに必要なハードディスクも接続して再度” Auto Setup”を行ってください。
3. さらにアレイを作る場合は2. を繰り返してください。

方法 2

”Define Array option” で必要な設定を行ってください。

セクション 3 View Drive Assignments

ハードディスクの情報を表示します。 ” Assignment” の下には属しているアレイの番号または “ Free.” を表示します。 “ Free” のハードディスクはアレイに組み込むこともできますし、ミラーリングアレイの予備にすることもできます。アレイに属していないハードディスクはOSがアクセスすることはできません。

FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.			
[View Drive Assignments]			
Channel :ID	Drive Model	Capacity	Assignment
1: Mas	MAXTOR87000A8	6522	Array 1
1: Sla	MAXTOR87000A8	6522	Free
2: Mas	MAXTOR87000A8	6522	Array 1
[Keys Available]			
[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit			

セクション 4 Define Array

ここではアレイの設定を行います。PDB-Rでは1つまたは2つのアレイが作れます。1台のハードディスクでストライピングまたはスパニングに設定することもできます。

[Define Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity (MB)	Status
Array 1	Stripe	2	13340	Functional
Array 1	—	—	—	—
Array 1	—	—	—	—
Array 1	—	—	—	—

[Keys Available]

Note: * —Bootable Array
 [↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select [Space] Change Drive

メモ

- RIOWORKS™ ではアレイの設定が簡単に行える “ Auto Setup” を推奨しております。
- “Define Array “ でアレイの設定を行うときは、矢印キーでアレイ番号を選択し<Enter>キーを押すと設定画面 ” Define Array Definition Menu “が現れます。

4-1: Define Array Definition Menu

カーソルをアレイ番号に合わせ<Space>キーを押すとアレイ・タイプが選べます。タイプの詳細は “ Auto Setup”または第4章「RAID レベルについて」を参照してください。

タイプ : Performance (RAID 0 Striping), Fault Tolerance (RAID 1 Mirroring), RAID 0+1 Striping/Mirroring (for 4 drives), or Capacity (Spanning).

FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.				
[Define Array Definition Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity (MB)	Status
Array 1	Stripe	2	13340	Functional
Stripe Block:	64KB			

[Drive Assignments]		
Channel: ID	Drive Model	Capacity
1: Mas	MAXTOR87000A8	6522
1: Sla	MAXTOR87000A8	6522
2: Mas	MAXTOR87000A8	6522

Any Key to Continue

4-2 : Drive Assignments オプション

“Drive Assignments “セクションで任意のハードディスクにカーソルを移動し、<Space>キーを押し ” Y” を押すとディスクアレイに追加します。<Ctrl>+<Y>キーを押すと変更後のアレイ設定を保存します。

1. ストライピング、スパニング、ミラーリング&ストライピングの各アレイを選択した場合、 ” Define Array”画面
 に表示していた初期値はアレイ設定後の情報に変わります。<Esc>キーを押してメインメニューへ戻って
 下
 さい。

2. 2台のハードディスクを使ってミラーリングアレイを選択した場合、次画面が現れます。2台の新しいハードディスクとしても使えますし、データを収録したハードディスクからもう1台のハードディスクに複製をすることもできます。

4-3 : ミラーリングアレイの作成

上記の ” Drive Assignments” オプションで2台のハードディスクを使ってミラーリングアレイを選択した場合、まず

<C t r l >+<Y>キーを押してアレイ設定を保存してください。以下のウィンドウが現れたら ” Y” か ” N” を選択

してください。 ” Y” を選ぶとミラーリングアレイの設定後、データを収録したハードディスクからもう1台のハードディスクに複製を作ります。 ” N” を選ぶとデータの複製は作らずにミラーリングアレイの設定だけを行います。

Do you want the disk image to be duplicated to another (Yes/No)
Y-Create and Duplicate
N- Create Only

4-4 : 障害復旧用ドライブの追加

P D B - Rはデータを収録したハードディスクをそのまま使ってミラーリングアレイを作ることができます。アレイ内でデータを複製される方のハードディスクの容量は、基になるハードディスクと同じかそれ以上なければなりません。以下のウィンドウが現れたら ” Y” を選んでください。B I O Sが既存データを空のハードディスクへ複製します。

Do you want the disk image to be duplicated to another (Yes/No)
Y-Create and Duplicate
N- Create Only

以下のウィンドウが現れたら矢印キーで複製すべきデータを収録しているハードディスクを選択して<E n t e r >キーを押してください。

[Please Select A Source Disk]		
Channel :ID	Drive Model	Capacity
1: Master	MAXTOR87000A8	6522
2: Master	MAXTOR87000A8	6522

データの複写を開始するかを訊ねられますので “ Y” を押してください。

メモ

複写先のハードディスクにもしデータが存在していたら、それは消滅します。複写策のハードディスクは慎重に選んでください。

4-5 : システム起動用のディスクアレイ設定

”Define Array Menu” 画面に戻ってください。定義済みのアレイをシステム起動用にすることができます。起動用にしたいアレイを選択して<S p a c e >キーを押してください。起動用になるとアレイ番号の横にアスタリスク ” * ” を表示します。

メモ

システムは起動用アレイをC : ドライブとして使います。

[Define Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity (MB)	Status

Array 1	Stripe	2	13044	Functional
*Array 2	Mirror	2	6522	Functional

*denote bootable

4-6 : ディスクアレイの認識順

PDB-Rは起動中にディスクアレイを以下の順に認識します。

1. FastBuild™ Setupで設定した起動用ディスクアレイ
2. アレイ番号 (例: Array 0, Array 1) の順にドライブレターを割り振ります。

4-7 : ディスクアレイ情報の保存

ディスクアレイ情報はアレイを構成するハードディスク各々の予約されたセクターに保存されます。PDB-RのIDE RAID上のコネクタであればアレイ情報の再設定をすることなくハードディスクの追加・交換・接続位置変更ができます。

セクション5 アレイの削除

このメニューでディスクアレイの設定を削除できます。

```

FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.

[View Drive Assignments]

Array No      RAID Mode    Total Drv    Capacity (MB)    Status
Array 1       Stripe       2            13340            Functional
Array 2       Mirror       2            6522             Functional
Array 3       -           -            -               -
Array 4       -           -            -               -

[Keys Available]

Note: * -Bootable Array
[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select [Space] Change Drive

```

警告

ディスクアレイの設定を削除するとアレイ内のデータは消滅します。

削除したいアレイ番号を選択しキーを押してください。下のメッセージが現れたら<Ctrl>+<Y>キーを押して削除を確定します。

```

Are you sure you want to delete this array?
Press Ctrl-Y to Delete, or others to Abort.....

```

セクション6 アレイの再作成

ミラーリングアレイを構成するハードディスクに発生したエラーを修復します。

FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.				
[Rebuild Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity (MB)	Status
Array 1	Stripe	2	13340	Functional
Array 2	Mirror	2	6522	Critical
Array 3	—	—	—	—
Array 4	—	—	—	—

[Keys Available]

[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select [Space] Change Drive

メモ

ハードディスクの物理的な故障の場合は別のハードディスクと交換してください。

“Rebuild Array” で作業を行うには、以下手順に従ってください。

1. BIOS 起動時に表示されるエラーメッセージでアレイに障害が発生したことがわかります。
2. FastBuildTM の “ Define Array.”メニューから障害のあるハードディスクを特定してください。
3. 電源を切って問題のハードディスクを取り外してください。
4. 全く同じ型番のハードディスクと取り替えてください。
5. ” Rebuild Array”メニューを開き、ハードディスクを取り替えたアレイの状況が “ critical”であることを確認します。
6. “critical” のアレイにカーソルを合わせ、< E n t e r >キーを押すと下図の画面が現れます。
7. [Select Drive for Rebuild] の下に表示している交換したハードディスクが表示されます。そこにカーソルを合わせ< E n t e r >キーを押すとデータとミラーリングアレイ情報のコピーを開始します。

FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.				
[Rebuild Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity (MB)	Status
Array 1	Stripe	2	13340	Functional
Stripe Block: Not Available				
[Select Drive for Rebuild]				
Channel :ID	Drive Model	Capacity		
1: Master	MAXTOR87000A8	6522		

[Keys Available]

[↑] Up [↓] Down [ESC] Exit [Enter] Select [Space] Change Drive

メモ

ミラーリングアレイの自動修復を行うには、IDE RAID コネクタに予備のハードディスクを取り付けて下さい。予備のハードディスクはアレイに登録していないもので、容量は基のハードディスク以上なければなりません。バックグラウンドでの自動修復はDOS以外のOSでサポートしています。自動修復後は障害の発生したハードディスクを取り除いてください。

このメニューではアダプターオプションの表示と設定ができます。

```
FastBuild (tm) Utility 1.XX (c)1995-99 Promise Technology, Inc.

[Adapter Configuration- Options]

Ultra ATA Mode: Auto
Halt On Error: Enable

[System Resources Configuration]

Channel 1 (IDE1)      Interrupt: A      I/O Port :FFF0
Channel 2 (IDE2)      Interrupt: A      I/O Port :FFA8

[Keys Available]

[↑] Up [↓] Selection [←,→, Space] Change Option [ESC] Exit
```

Ultra ATA Mode

DMA バーストレートを設定します。“ Turbo” はデータ転送を最速にします。
“Fast” はシステムが安定稼動しやすくなります。

選択肢: *Auto* (Default), *Turbo*, *Fast*.

Halt On Error

B I O S 起動時に B I O S がエラーを検知したら、処理を停止します。

選択肢: Enable (Default), Disable

System Resources Configuration

ここには P D B - R が使用する P C I バススロットの割り込みとポートアドレスを表示します。

第4章 モニタ・ユーティリティ

PDB-Rでディスクアレイの設定が完了しますと FastCheck ユーティリティを使ってアレイの状態の監視や設定変更ができるようになります。オペレーションログを取ったり、ミラーリングアレイの定期保守を行うこともできます。

4-1 : モニタ・ユーティリティのインストール

1. 同梱のユーティリティディスクをフロッピードライブに入れてください。
2. 「スタート」ボタンの「ファイル名を指定して実行」を選び、ダイアログボックスが出てきたら a:\ と入力して「OK」ボタンを押してください。
3. あとは画面の指示に従ってください。

メモ

- インストール中に「スタートアップ毎にユーティリティを実行しますか」と訊かれたら ” YES” をクリックすることを推奨いたします。スタートボタンから手動でユーティリティを実行することもできます。ユーティリティが稼動中であればディスクアレイのトラブルを報告してくれます。
- 95/NT4.0以降の Windows のタスク・バーに FastCheck アイコンが現れます。ユーティリティの画面を表示するにはそのアイコンをダブルクリックしてください。
- Windows NT 3.51 にタスクバーはありません。アイコンはデスクトップに作られます。

4-2 : FastCheck モニタ・ユーティリティの実行

ユーティリティを実行するには、タスクバーかデスクトップにあるアイコンをダブルクリックしてください。または、スタートボタンから F a s t C h e c k を選択してください。

セクション1 メイン画面

ユーティリティを起動すると、最初に「A r r a y」タブを表示します。

セクション2 Arrayウィンドウ

4-2-1: Arrayウィンドウ

Array ウィンドウではPDB-Rのディスクアレイ情報を表示します。また、ミラーリングアレイ内のデータの同期をとったり、交換したハードディスクにデータを復元したりできます。ただし、アレイの設定そのものを変更することはできません。

左ペインのアレイ番号を左クリックすると右ペインには以下の情報を表示します。

RAID mode

Striping, Mirroring, Mirroring & Striping, Spanningの何れかを表示します。

Mapping

シリンダ数・ヘッダ数・セクタ数をあたかも1台のハードディスクのように表示します。

Size

アレイの容量を表示します。

Status

次の3つのうちの何れかを表示します。

Functional	アレイは正常に機能しています。
Critical	ミラーリングアレイ (RAID 1 or RAID 0+1) を構成するハードディスクの1台に障害が発生した、または、切断された場合に表示します。 しかし、一方の正常なハードディスクからデータを復元することができます。 障害の発生したハードディスクはできるだけ早期に交換してください。
Offline	ストライピングアレイ、またはスパニングアレイを構成するハードディスクに障害が発生した場合に表示します。データは消失していますので、ハードディスクを交換後にバックアップデータを書き戻してください。

4-2-2: アレイドライブ情報

左ペインでアレイ番号の下に連なるハードディスク名を左クリックすると右ペインには以下の情報を表示します。

Status

ハードディスクの状況を表示します。

Okay	正常に稼動中です。
Bad	ハードディスクに障害を検知しました。またはハードディスクが切断されました。 ミラーリングアレイは正常なハードディスクが1台あれば稼動し続けます。 ストライピングアレイとスパニングアレイに障害が発生するとアレイから切断されます。データは消失していますので、ハードディスクを交換後にバックアップデータを書き戻してください。
Offline	ストライピングアレイとスパニングアレイに“Bad”のハードディスクが含まれています。
Rebuilding	ミラーリングアレイのデータを復元中、データの受け取り側であるハードディスクに表示します。

Size

ハードディスクの容量を表示します。

Location

ハードディスクがどこに接続されているかを表示します。

Mapping

ハードディスクのシリンダ数・ヘッダ数・セクタ数を表示します。

Timing

データの転送モードを表示します。

4-2-3 : Arrayプルダウンメニュー

アレイ番号を右クリックするとミラーリングアレイ内のデータの同期をとったり (Synchronize)、交換したハードディスクにデータを復元することが (Rebuild) できます。

4-2-3-1 : アレイの同期

同期とはミラーリングアレイ内のハードディスクに収録しているデータを一致させることです。定期的に整合チェックを行い、不一致データを発見するとプライマリハードディスクからセカンダリハードディスクへ自動的にデータをコピーします。

同期の手順

1. アレイ番号を右クリックするとプルダウンメニューが出てきます。そこで " Synchronize" を選んでください。 "Initialize Synchronize process on Array #" と訊かれたOKをクリックしてください。
2. アレイ番号を再び右クリックするとプルダウンメニューに " Stop Synchronize" オプションが出てきます。これを選ぶと同期処理を中止できます。
3. "Stop Synchronize" オプションを選ぶと同期をキャンセルするか (" Cancel Synchronization?") と訊いてきます。 " Yes" を選ぶと同期を中止します。

メモ

アレイの同期中にもPCは正常に稼動し続けます。しかし、パフォーマンスは徐々に低下していきます。

4-2-3-2 : アレイの復元

アレイ内を構成するハードディスクの既存データをもう一方のハードディスクにコピーできます。

復元の手順

1. アレイ番号を右クリックするとプルダウンメニューが出てきます。そこで " Rebuild" を選んでください。
2. "Initialize Synchronize process on Array #" と訊かれたOKをクリックしてください。
3. 複数のアレイを定義してある場合、アレイ番号を選んでください。 " Next" をクリックすると次のステップへ進みます。
4. データの送り先、または、データを復元先のハードディスクをするを決定してください。 " Finish" をクリックすると復元処理を開始します。
5. 復元を開始すると FastCheck モニタ画面に戻ります。
6. アレイ番号を再び右クリックするとプルダウンメニューに " Stop Synchronize" オプションが出てきます。これを選ぶと同期処理を中止できます。
4. "Stop Rebuild" オプションを選ぶと同期をキャンセルするか (" Cancel Rebuild?") と訊いてきます。 "Yes" を選ぶと復元を中止します。

メモ

- アレイの復元中にもPCは正常に稼動し続けます。しかし、パフォーマンスは徐々に低下していきます。システムを稼動したままアレイの復元を行うとその間データは保全されません。
- Rebuild ウィザードのステップ2ではデータの送り先ハードディスクを指定します。誤ってデータの送り元ハードディスクを指定するとデータは消失してしまいます。
- アレイに属していない予備のハードディスクを接続していると復元は自動的に行われます。

セクション3 Controllerウィンドウ

このオプションではPDB-RのIDE RAIDの物理情報のみ表示します。

4-3-1 : コントローラ情報

Section 4: Options Window

“Controller”タブの右ペインには以下の情報を表示します。

PCI Slot

RAIDが常駐するPCIスロット番号を表示します。

IRQ

RAID用PCIスロットに割り当てられたIRQを表示します。

Bus Master Base

バスマスター機能のためのベースアドレスを16進数で表示します。

4-3-2 : コントローラ・チャンネル情報

左ペインのチャンネルアイコンを左クリックすると右ペインにベースI/Oアドレスを表示します。

4-3-3 : コントローラ・ドライブ情報

左ペインのハードディスクアイコンを左クリックすると右ペインに以下の情報を表示します。

Status

ハードディスクの状況を表示します。

Okay	正常に稼動中です。
Bad	ハードディスクに障害を検知しました。またはハードディスクが切断されました。ミラーリングアレイは正常なハードディスクが1台あれば稼動し続けます。ストライピングアレイとスパニングアレイに障害が発生するとアレイから切断されます。データは消失していますので、ハードディスクを交換後にバックアップデータを書き戻してください。
Offline	ストライピングアレイとスパニングアレイに“Bad”のハードディスクが含まれています。
Rebuilding	ミラーリングアレイのデータを復元中、データの受け取り側であるハードディスクに表示します。

Size

ハードディスクの容量を表示します。

Location

ハードディスクがどこに接続されているかを表示します。

Mapping

ハードディスクのシリンダ数・ヘッダ数・セクタ数を表示します。

Timing

データの転送モードを表示します。

セクション4 オプションウィンドウ

アレイの管理者は「オプション」タブの内容を変更できます。

4-4-2 : Notification

Enable audible prompt

ここにチェックマークをつけるとイベントが発生する（ハードディスクに障害発生、同期や復元処理の完了等）とアラームを鳴らします。

Popup message box

ここにチェックマークをつけるとイベントが発生する（ハードディスクに障害発生、同期や復元処理の完了等）とポップアップメッセージを表示します。

Use log file

ここにチェックマークをつけるとアレイのイベントログを作成します。ログファイルを作成するディレクトリを指定してください。（例：c:\Program Files\Promise\FastTrak66）

デフォルトはF a s t C h e c kユーティリティのインストール先と同じディレクトリです。

Use NT system event log

W i n 9 5以降では自動的にログファイルがg r e e t e d o u tされたときにセットできます。

NTではNTのイベントログとして書き込むことができます。

NTでF a s t C h e c kを参照するには、イベントビューアを開いて”FastCheck”を見つけてください。

4-4-3 : アレイの同期スケジュール （4-2-3-1も参照してください）

Disable

ここにチェックマークをつけると同期スケジュールをセットできなくなります。

Schedule event

同期をとる周期を設定してください。

Start time

同期の開始時刻を設定してください。

On

同期周期が週次なら曜日、月次なら日を設定してください。

4-4-4 : パスワード

Enable

ここにチェックマークをつけるとF a s t C h e c kを起動する度にパスワード入力を要求されます。パスワードを変更する場合は「C h a n g e」ボタンを押してください。

4-4-5 : デスクトップの表示

Start minimized

ユーティリティは最小化してツールバーに残ります。

Always on top

ユーティリティーを手動で閉じるか最小化するまで表示します。

第5章 RAIDドライバのインストール

Microsoft Windows 95/98へのドライバインストール

1. システム起動中に「新しいハードウェアが見つかりました」というメッセージが現れます。そのバージョンにより表示内容が若干異なります。Win95 4.00.950 と 4.00.950A ではPCI デバイスが見つからない、Win95 4.00950B と Win98 ではPCI RAID コントローラが見つからないと表示します。
2. ハードウェア製造者が提供するドライバディスクを使用するボタンをクリックするとOSは自動的に新しいデバイスを認識します。
3. ドライバのディスクをフロッピードライブに入れ、参照先を A:\Win9x にしてください。
4. 次に " Promise Technology,Inc. PCI FastTrak66" を選ぶと Windows 95/98 にドライバがコピーされます。
5. システムの設定を変更するかと訊かれたらフロッピーディスクを抜いて " YES" をクリックしてください。再起動するとドライバが有効になります。
6. RAIDドライバのインストールが終了したら、デスクトップにある「マイコンピュータ」から「コントロールパネル」を開いてください。
7. 「システム」アイコンをダブルクリックして「デバイスマネージャ」タブを選んでください。" SCSI コントローラ" の下に " Promise Technology,Inc. PCI FastTrak66" と表示していればドライバのインストールは成功です。

Windows NT 3.5x/NT 4.0へのドライバインストール

Windows NT 3.51にPDB-R RAIDドライバをインストールする場合は、事前にインストール用フロッピーを作成しなければなりません。フォーマット済みのフロッピーに以下のファイルをコピーしてからインストールを行ってください。

- ・ RAID ドライバフロッピーのN 3.51 ディレクトリから " TXTSETUP.OEM" ファイルと " OEMSETUP.INF" ファイル
- ・ RAID ドライバフロッピーのルートディレクトリから " FASTTRAK66.SYS" ファイルと " DISK"

NT 4.0にインストールする場合は RAID ドライバフロッピーをそのまま使います。

方法1

1. 起動用フロッピーで立ち上げてDOSコマンドでインストールします。DOSプロンプトに” WINNT /B.”と入力してください。いくつかのファイルがコピーされ、再起動します。 ” Setup is inspecting your computer's hardware configuration....” (日本語ではどのようなメッセージなのか今は確認できないため原文のまま書きましました) というメッセージが現れたら<F6>キーを押してください。
2. ” Welcome to Setup” ウィンドウが出たら<Enter>キーを押してください。
3. ” Setup Method” ダイアログで ” Express Setup” を選び<Enter>キーを押してください。<S>キーを押すとSCSIアダプタが追加されます。
4. ドライバをインストールするときは ” Other” オプションを選びAドライブに RAID ドライバフロッピー (NT3.51の場合は作成したインストール用フロッピー) を入れてください。
5. ” Promise Technology, Inc. PCI FastTrak66 RAID Controller”を選んでOKボタンをクリックしてください。
6. セットアップの続きを行ってください。

方法2

1. 起動用CD-ROMから立ち上げて ” Setup is inspecting your computer's hardware configuration....” というメッセージが現れたら<F6>キーを押してください。
2. あとは「方法1」のステップ2~6と同じです。

メモ

Windows NTがインストール済みのハードディスクをPDB-RのRAIDに接続する場合、ハードディスクを現在のIDEコントローラに接続したまま以下の作業を行ってください。

既存のWinNT 3.5xにRAIDドライバを追加する場合

1. プログラムマネージャの「メイン」グループから ” Windows NT Setup” をダブルクリックしてください。
2. ” Windows NT Setup” でオプションを選びSCSIアダプタの追加と削除を開いてください。
3. SCSIアダプタのセットアップで「追加」をクリックしてください。
4. SCSIアダプタの一覧がでたらその他を選んでください。
5. 画面の指示に従いフロッピーを入れてください。参照先は “ A:” にしてください。
6. OEMオプションを選ぶよう促されたら ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” を選んで、OKボタンをクリックしてください。
7. SCSIアダプタオプションを選ぶよう促されたら「インストール」をクリックしてください。
8. インストール終了後、SCSIアダプタセットアップのボックスが現れたら ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” のインストールは成功です。
9. システムを再起動してください。

既存のWinNT 3.5xからRAIDドライバを削除する場合

1. プログラムマネージャの「メイン」グループから ” Windows NT Setup” をダブルクリックしてください。
2. ” Windows NT Setup” でオプションを選びSCSIアダプタの追加と削除を開いてください。
3. SCSIアダプタのセットアップで ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” を選び、「削除」をクリックしてください。
4. SCSIアダプタセットアップのボックスがから ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” が消えています。

既存のWinNT 4.xにRAIDドライバを追加する場合

1. 「スタート」ボタンの「設定」から「コントロールパネル」を選んでください。
2. SCSIアダプタからドライバの一覧を開いてください。
3. 追加ボタンを押し、ドライバのインストールダイアログでディスク参照ボタンを押してください。
4. フロッピーからインストールするためのダイアログが現れたら、ドライバフロッピーを挿入して参照先に “ A:” と記入してOKボタンを押します。
5. ドライバの一覧の中から ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” を選び、OKボタンを押してください。
6. SCSIアダプタオプションを選ぶよう促されたら「インストール」をクリックしてください。

7. インストール終了後、SCSIアダプタセットアップのボックスが現れたら ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” のインストールは成功です。
8. システムを再起動してください。

既存のWinNT3.5xからRAIDドライバを削除する場合

1. 「スタート」ボタンの「設定」から「コントロールパネル」を選んでください。
2. SCSIアダプタからドライバの一覧を開いてください。
3. 削除ボタンを押してください。
4. SCSIアダプタボックスから ” Promise Technology Inc. FastTrak66 RAID Controller” が消えています。